



☆ AWC事務局便り 8月号 ☆

人吉市の豪雨被害に支援品を送りました

熊本県人吉市は2020年7月3日～4日にかけて豪雨被害にみまわれました。マリ代表が教鞭を取り、オンラインで授業を行っている東京女子大学のゼミ生が人吉市に在住で、本人の家は何とか被害を免れたものの、周りの道路が冠水して断水や停電などで大変な状況となりました。

マリ代表の呼びかけで、その学生から必要とされている品物のリストが届きましたので、7月14日に女性用下着、靴下、作業用の手袋、虫よけ、女性用化粧品などの支援品を送りました。化粧品は(株)ファランドール様からの寄付品です。この化粧品は、支援品としてすぐに頭に思い浮かばないものですが、被災された女性のエンパワメントにはとても有効です。たくさんのご寄付をお寄せ下さった(株)ファランドール様に心から感謝申し上げます。

コロナの影響でボランティアの受け入れも進まない中、豪雨、洪水に続いて猛暑が始まり、まだまだ大変な状況が続いているようですが、一刻も早く被災された方々が元の暮らしに戻ることができるように願っています。



人吉市への支援品

子どもたちの植林活動

今年は乾季にあちこちで山火事が発生し、北タイは大変な大気汚染に見舞われ、大きな痛手を受けました。山が痩せて水を十分に貯める力がなくなってきています。

山を元気によみがえらせるために、過去に森林局でワークショップを受講した人を対象に苗木の配布が行われました。ワイルドアーモンドの木の苗200本の提供を受け、お互い様プロジェクトのリーダーのギー先生の指導の下、チェンライの山の上の村、ファファイー村に植樹しました。このアクティビティには25人の青年が参加しました。木が育てばアーモンドに似たナッツを収穫することができ、換金作物として村の収入になります。

山地民の暮らしは山や森と一体になっています。「自分の土地であるかどうかではなく、皆が暮らしていくために助け合うという気持ちが大切だ」とギー先生はおっしゃっています。

この作業には、過去にお互い様プロジェクトからの奨学金を受け、今は独り立ちしているEくんも駆けつけてくれました。中には薬物に手を出してしまった子も、身体中にタトゥーを入れている子もいますが、家庭や様々な問題から離れて良い友人と出会い前向きになれたなど、大きな変化があります。

8月初め、タイでは記録的な豪雨があり、チェンマイとチェンライの間の道路が冠水して通行止めになったというニュースが飛び込んできました。保水力を失った山はがけ崩れなどを起こしやすいので心配しましたが、とりあえずは無事だったようです。子どもたちが植えた木が育つと、換金作物が増える上に、保水力を持ったしっかりとした山になることに役立つので、一石二鳥です。

